

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎カラー特集 第15回「世界青年の船」事業
航空機による派遣事業

マクロコズム 2003.3



vol. 51

(財)青少年国際交流推進センター

第15回「世界青年の船」事業

NOITAROBALLOC ～ *One people, Many minds* ～

実施期間：日本国内プログラム（12か国の招へい外国青年日本滞在）平成14年10月22日～29日
〔10月22日 来日、23日 課題別視察、10月25日～27日 地方旅行（岩手・山形・愛知・三重・石川・北九州市）、27日～29日 日本青年と合流し出発前研修、10月29日 シンガポールへ出発〕

航海期間：10月31日 シンガポールより出航～ケアンズ（オーストラリア）～ホノルル（ハワイ）～バンクーバー（カナダ）～ホノルル（外国青年下船）～12月13日 日本へ帰港

第15回「世界青年の船」事業は、日本からの出航ではなく、第29回「東南アジア青年の船」事業の最終寄港地であるシンガポールから出航するという日程でした。太平洋の荒波で船の揺れに悩まされることもありましたが、各寄港地では外国既参加青年も受入れの中心となり温かく迎えてくれました。

船内活動

「世界青年の船」の特色は、プログラムの大半をしめる船内活動にあります。そこには、国境を越えた一つの世界が創られていきます。



▲ グループ活動（書道に挑戦する外国参加青年）

▼ “にっぽん丸” 船内でのディスカッションの様子



日本のナショナル・プレゼンテーションで YOSAKOIソーランを踊った後、決めのポーズ！



関西酒パーティーにて
▼ 日本文化の披露



▼ トングのナショナル・プレゼンテーション



エキシビジョンで得意の楽器を披露する外国青年と日本青年

第15回「世界青年の船」事業



▲ 船内活動の基盤であるレターグループでの写真撮影

▼ スポーツ&リクリエーションデーで大縄跳びに挑戦



▲ 黒澤先生によるセミナー



▲ Jean-Mare Coicaud 先生による国連セミナー



◀ 修了式



▲ ハワイへ向けての出航式（ケアンズにて）



▲ ハワイの Bishop Museum を訪問し、レイ作りを体験している様子



ケアンズ（オーストラリア）の Tjapukai Aboriginal Cultural Park を訪問し、
◀ 槍投げを体験

寄港地活動

バンクーバー（カナダ）で University of British Columbia（UBC）を訪れる参加青年 ▶



〔事後活動セッション〕

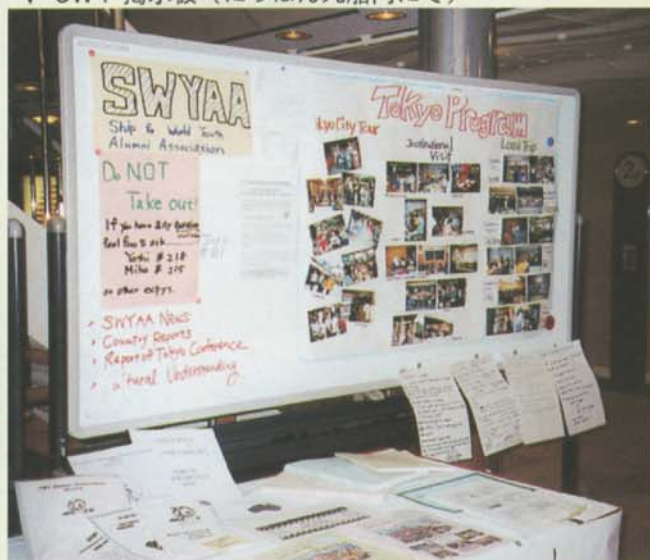
カナダで行われた「世界青年の船」インターナショナル・リユニオンの終了後、事後活動組織代表者が乗船し、船上プログラムの事後活動セッションにおいて説明を行いました。

第15回の参加青年は、下船後の活動について真剣に話し合い様々な連携活動の提案がされました。今回の海外参加国12か国のうち、11か国に同窓会組織が設立されているため、各国とも理解が早く今後の連携が期待されます。



▲ モーニングアッセンブリーで参加青年に
“Future Post”の説明

▼ SWYA 掲示板（にっぽん丸船内にて）



▲ 事後活動セッション1
(Interest Group に分かれての討議セッション)▶



日本国内

短い日本滞在の中で、できるだけ日本の実質的な内容を理解してもらうために、課題別視察が組まれています。

課題別視察



新宿区立西新宿小学校で書道体験



▲ 裏千家 東京出張所で茶道体験



▲ 男女共同参画局主催 ヤングリーダーズフォーラムへの参加代表パネリストたち (Australia, USA, Canada)

▼ グループに分かれての分科会



▲ 多摩動物公園でシルバーボランティアの方々との交流



▲ 東京ガス 根岸工場にて液化天然ガス (LNG) の実験

地方旅行



岩手県

わんこそば大会

山形県

剣道に挑戦



石川県



愛知県

名古屋城の前で
記念撮影



三重県

北九州市

ホストファミリー
の方と記念撮影



海苔巻作り



小さな喜びから大きな感動まで、共存空間 “Nippon maru”での生活～船内活動

第15回「世界青年の船」参加青年
村本 由香

本事業に参加して、帰国後に友人から「どうだった？」と聞かれることが多い。最初の答えは、二つ。「一言では語りきれない。」と「参加して良かった!」。13か国、約250人の仲間と過ごした約1か月半は、発見と刺激の連続。

ディスカッションでは、家族やジェンダーを話題にグループの仲間を通して個人の違いや文化の違いを感じた。国連についてのテーマでは、主要言語がフランス語であるカメルーンの青年が、英語で一生懸命に話をしていたのが忘れられない。

セミナーは興味があった「地球環境と平和教育」が受講でき、ヴェネズエラの青年が「ヴェネズエラは経済や社会問題が深刻で、環境問題は二の次になっている。」と言っていたのが、印象に残っている。このセミナーのメンバーで、船内の資源やゴミ問題を考えようと「環境デー」を実施する

ことができ、自分にとっても大きなきっかけとなった。

船内では、個人が自由に企画できる自主活動が盛んで、参加や企画するのにプログラムが重なって、身体が二つ欲しい!と思ったことも。私が事前からやりたかった「Imagine」を歌う企画では、初回に約20人の参加あり、平和や幸せについて語り合うこともできた。みんなが自然と肩を組んで、一緒に歌ったときの笑顔は、最高の思い出の一つである。また、事前に関東在住の参加者有志で「よさこいソーラン節」を練習して披露したところ、外国青年に大受けで、すっかり Fisherman's Dance として定着し、“so-ran, so-ran”と一緒に掛け声をかけてくれるようにまでなったのには驚いた。

その他、各地の日本酒を紹介した酒パーティーを始め、ラテン、オセアニアパーティーなど地域

~~~~~ 主な内容 ~~~~~

| | |
|---------------------------|--------------------|
| 第15回「世界青年の船」事業報告レポート…9～12 | お知らせ……………22～24 |
| SSEAYP国際ショナル総会ご案内…12 | 都道府県 IYEO 事業報告会 |
| モロッコにおける児童施設とその活動…13～16 | IYEO 全国大会兵庫大会ご案内 |
| 平成15年度内閣府青年国際交流事業 | 第31回青少年国際理解セミナーご案内 |
| 募集内容……………17～21 | 平成15年度 IYEO ブロック大会 |

〈表紙の説明〉

第15回「世界青年の船」
「にっぽん丸」船上にて
～全員集合!～



▲ 筆者右側

ごとの特色を活かした企画、スポーツや音楽などの趣味を通しての交流など、毎日のイベントを掲示板や朝の集まりなどでチェックするのが欠かせない日課となった。

自主活動とは別に、公式活動としてのクラブ活動では、私は和太鼓クラブに所属。メンバー全員で一つの曲を仕上げ、船内活動の発表会であるエキシビジョンで、外国青年と共に嬉び姿で披露した。あの全身に響くリズムは、今も思い出す。

60億人中の250人の仲間とのつながりの種 ～事後活動の始まり

船内で、キャリアネットワークという活動が立ち上がった。個人の専門分野や興味分野をお互いに知り、今後の活動に役立てようというもの。帰国後、早速メーリングリストで、まずはアジアや北米など地域ごとで参加型の活動を模索しているところだ。半年前までは、知らなかった者同士が、今は国名を聞いただけで友達の顔が思い浮かぶ。こんなにも強く結び付き、大切な存在に想える仲間に出会えたことは本当に幸せ。この種を大きな木に育てるように「想像する力、創造する力を未来に伝えたい。」と最初の応募作文に記載した気持ちを持ち続けたいと思う。

ハワイで外国参加青年と別れるときに、交わした言葉…

It's not over, just a beginning!



First and Final Experience

第15回「世界青年の船」参加青年
小島 竜太郎

SWY15というのは、僕にとってはジグソーパズルでした。参加青年が一人欠けていても、また一人でも多くいても同じ思い出を作ることは不可能なのです。全ての思い出や参加者がパズルの1ピースとなって僕の心に永遠に留っています。

このような実りある経験ができたのは周囲の方々の理解や協力が不可欠でしたが、自分の考え方をしっかり持つことがもっと必要でした。そこで、今回は自分なりの「世界青年の船」事業に対しての心構えを披露したいと思います。

- ・ どうせするならば何事も楽しんでやる
- ・ 少しでも興味を持ったことには積極的にチャレンジする
- ・ 船の上でしかできないことをする
- ・ 日中のプログラムだけでなく「夜」も重要な交流の場である
- ・ 何事もする前に諦めるのではなく、やってみてから考える
- ・ 自分を「頑張った」という言葉で満足させない
そしてその結果として、新たな発見やいくつかの貴重な体験（初体験）ができました。

満天の星空の下、寝る間を惜しんで、いろいろと話し合った。



▲ 筆者中央

- ・ 自分の気付かなかった性格を認識できた（仮装に目覚める etc.）
- ・ 3時過ぎに太陽が沈み、4時前に星空が広がる光景を見た
- ・ 太平洋上に浮かぶ「にっぽん丸」で散髪をした（非常に不評であった）
- ・ 船内で参加青年の投票により Most Famous Guy に選ばれた

これらは日常生活では絶対に得ることができない経験であったと自信を持って誇れます。

さて、このプログラムを通じて、私が得た一番大きな物というのは、外国参加青年との交流や友情関係を築いた以上に（もちろん得たのは間違いない）、日本人としてのアイデンティティの自覚でした。「世界青年の船」事業の前後を通じて、

こんなにも日本の文化や芸能について考えた機会は今まで生きてきて一度も無かったと思います。文化について学んだり準備をする時間を通じて、日本参加青年と非常に深い関係を築くことができました。また、強く意識した訳ではありませんが、「世界青年の船」に乗船するにあたり、日本参加青年と外

第15回「世界青年の船」事業報告

国参加青年に対して態度を変えない（違う接し方をしない）というポリシーを持っていました。というのも、外国参加青年も必要ですが、日本参加青年あつての「世界青年の船」事業であると考えからです。私は日本人との時間も大切にしたいので、一人一人と共有できる時間を貴重なものとして交流のチャンスを逃したくありませんでした。その甲斐あって、本当に素晴らしい一生繋がっていく友人を得ることができ、やはり「世界青年の船」事業に参加してよかったと思います。人生において、最初で最後のこの経験は一生忘れることはありません。

(ryutaro@tj8.so-net.ne.jp <http://www005.upp.so-net.ne.jp/ryutaro/>)

最後になりましたが、日本参加青年、外国参加青年、管理部の方々、日本青年国際交流機構の方々等、本プログラムに携わった全ての方々及び職場の方々や家族など参加できる機会を下さった方々に深く御礼を申し上げたいと思います。

SWY15で本当によかった。SWY15のみんなが大好きです。

そしてそして、「世界青年の船」事業を通じて、僕と仲良くしてくれた仲間たち、そう・あ・な・た、本当大好きです。ありがとう。

そして、これからもずっとよろしくね!

～ 16th SSEAYP International General Assembly in Malaysia

- 日 程： 平成 15 年 4 月 30 日（水）～5 月 3 日（祝）
- 場 所： マレーシア（クアラルンプール）
- プログラム：
 - <1 日目> 参加者来日
 - <2 日目> 開会式・総会・ワークショップ
 - <3 日目> 市内観光・閉会式
 - <4 日目> 参加者帰国

*ランカウイ島へのオプションツアー（別途料金 US\$ 100、5 日まで）
- 参加費： US\$ 130
（プログラム参加中の食費、宿泊費、参加費が含まれます。）
- 航空券： マレーシアへの往復航空券は、各自ご用意ください。IYEO を通じて購入を希望される方は、下記申込み先までご連絡ください。なお、ゴールデンウェークの為混雑が予想されます。航空券はお早めにお買い求め下さい。
- 申込み方法： 参加ご希望の方は詳細資料を IYEO 事務局からお取り寄せ下さい。申込みは各同窓会を通して行われますので、個人でのマレーシアへの直接の申込みはされませんようお願いします。
- 申込み先： IYEO 事務局 (担当：赤澤、渡辺)
Tel:03-3249-0767 Fax:03-3639-2436 E-mail:siga@iyeo.or.jp



モロッコにおける児童施設とその活動

平成14年度「国際青年育成交流」事業（派遣）

モロッコ派遣団 佐藤 有一

（宮城県）

1. はじめに

モロッコを思い出すときに一番に心に浮かぶのは子供達の笑顔である。日本に帰ってきた今、移動中の街角で出会う子供達の興味の入り混じった笑顔や、訪問した小学校や青年の家で出会った子供達が元気に授業やクラブ活動をしている姿を懐かしく思う。このようにモロッコ訪問中に多くの子供達と出会ううちに、モロッコの子供達はどのような毎日を過ごしているのかについて興味を持つようになった。ここでは主に、見学をした児童権利保護調査委員会（NOCR-National Observatory for Children's office）の活動、ララ・メリアムセンター、そして Ait Ourir 子供村について述べてみたい。

2. 児童権利保護調査委員会とララ・メリアムセンター

9月17日の10時に児童保護調査委員会のオフィスを訪れ、モロッコにおける児童権利の状況に関するレクチャーを受けた。モロッコ児童保護調査委員会は、国王のハッサン2世が国連児童の権利に関する条約に1993年に批准した2年後に作られた。この委員会の活動内容は児童権利における状況や現在行われている児童福祉活動を調査、評価し、また一般の人々の児童権利に対する意識を高めることにある。モロッコでは2001年2月には首都のラバトにてアラブ諸国のNGOによる

児童問題に関するフォーラムが開かれているように、児童福祉に関する活動が近年盛んになっているようである。

同日の16時にはモロッコの児童保護連盟の下部組織で、実際の活動センターにあたるララ・メリアムセンターを見学した。ラバトの街中に位置しているこのセンターは、新生児から6歳までの孤児と障害児のために建てられたものであった。実際に子供達が生活している施設を見学したが、この経験は非常に新鮮だった。この日までのモロッコでの団の行動のほとんどは、どの施設に行ってもオフィスの中で話を聞くだけで実際の活動の様子を見ることができなかったからである。この日の前日にはラバト郊外に位置するボーイスカウトセンターに見学したのだが、子供達のキャンプ時期には会わず交流の機会がもてなかった。そういったことから、短い時間ではあったが実際に活動している施設を訪れ、子供達と交流の機会をもてることは本当に嬉しかった。

3. Ait Ourir 子供村における見学

9月25日に私たちはモロッコにおける Ait Ourir 子供村を訪れた。ここは SOS Children's Villages International によって建てられた孤児や両親に見捨てられた子供達のための施設である。

SOS Children's Villages International はオース

「国際青年育成交流」事業（派遣）

トリアのヘルマン・グマイナーが第二次世界大戦後の1949年に設立した戦災孤児および浮浪児のための非営利団体である。この団体は世界各地に孤児のための子供村という施設を建てているが、ここには他の孤児施設にはない、いくつかの特徴がある。最初の特徴として、どの子供にもつく「SOS マザー」と呼ばれる子供達の世話をする母親としての役割を果たす女性が、世話をする子供達と同じ家に一緒に住むことが挙げられる。

第二の特徴は年の違った男の子や女の子が兄弟のように一緒の家に住むことである。第三には各々の家族が子供村の中に自分達の家を持っていることが挙げられる。

私たちが訪れた Ait Ourir 子供村はモロッコにおける最初の SOS 子供村である。SOS Children's Villages International のモロッコでの活動は、1983年1月のこの子供村の建設に始まる。1985年に最初の子供が入村し、翌年には王家のララ・ハスナ妃の下に属した団体である the Moroccan SOS Children's Village Association が設立されている。1988年には北モロッコのイムゾーレンに、2000年にはカサブランカにそれぞれ建設され、現在モロッコには三つの子供村がある。

Ait Ourir 子供村はアトラス山脈の麓に位置し、マラケシュから40キロほど離れたところにあった。赤色の土が広がる風景をバスの窓から眺めているうちに SOS 子供村に着いた。着いてみると子供村の中は鮮やかな緑の木々に囲まれており、子供村全体に明るい雰囲気を感じた。

この子供村の中には0歳から15歳までの120人の子供達が住んでいる。そのうち3分の2が男の子で、3分の1が女の子である。母親である女



性は14人、また叔母としての女性が8人いる。この叔母は母親が何かの用事で子供村にいない時に、母親の代わりに子供達の面倒をみる人である。また子供村における教育関係の職員は、2人の先生と1人の心理学者、4人の幼稚園の先生、そして農場体験を子供達に教える3人の先生である。子供村を管理するために管理者や秘書、会計士、守衛などもいる。この子供村の中にある幼稚園は近隣の子供達も利用しており、園児は村の子供達の40人と近隣の子供達50人で構成されている。

SOS 子供村には母親とその子供達のために建てられた13軒の家と、2つの管理棟、スポーツグラウンドなどがあった。教室の隣には図書室やオーディオルーム、技術室には写真現像機器や工作機器があるなど、子供が学習する中で必要なものは一通り揃っていた。教室の建物を過ぎたあたりには果物やオリーブの木が800本も植えられており、その奥には牛や鶏などが飼われていた。子供達はここで牛の乳搾りや果物収穫などの農場体験をするそうである。

幼稚園や学校を見学した後に、母親とその子供



達が住む家を訪問した。家の中はゆったりとしたリビングルームや子供部屋などがあり、住む人数から考えても余裕がある大きさだった。お母さんと小学生ほどの男の子二人と女の子が一人、私たちを迎えてくれた。子供達は、最初のうちお母さんの後ろで恥ずかしそうにこちらを見ているだけだったが、慣れてくると私たちの周りを元気に走り回るようになって団員たちと遊ぶまでになった。奥の部屋では、生まれて間もないのではないかと思うくらい小さな赤ちゃんがすやすやと寝ていた。

優しそうなお母さんの周りを元気に駆け回る子供達を見ているうちに、子供達はこの子供村の中で幸せに暮らしているのだと感じ、ここは孤児院というよりはむしろたくさんの子供をもったお母さんが一緒に住んでいる家族共同体であることを実感した。

4. まとめ

モロッコ訪問の中ではララ・メリアムセンター、SOS子供村だけでなく、日本で言う児童館のような地域の子供や青年が集い様々な活動をする青年

の家、そして青少年の宿泊、活動施設であるブズニカ青少年センター、ボーイスカウト・センター、カサブランカの非行少女施設、フェズの小学校など、子供達と直接触れ合う機会が何度もあった。また児童権利保護調査委員会や児童教育 NGO の ATT などではモロッコの子供達についてのレクチャーを受けることができ、モロッコの子供達を知る上では充実した日程であった。こうした訪問先を回ることで実感したことは、モロッコの子供達も日本の子供達と変わることはないすばらしい笑顔をしている、ということである。訪問先の施設や街角で子供達と出会えたことは、モロッコを訪問した中でも一番の思い出である。街の路地裏でサッカーをしていたり、迷路のように入り組んだメディナの狭い通りを友達と一緒に走り抜けていたりしている子供達を見ていると、モロッコの子供達の元気さとたくましさを感じた。その一方で、訪問先の施設からは、個人旅行では知ることが難しい生活の裏に隠れている貧困を理由とする児童労働、低い識字率や児童虐待、ストリートチルドレンなどのモロッコの子供達が抱える多くの問題を学ぶことができた。

モロッコの子供達を知るということは3週間という訪問では短すぎたような気がする。もう少し長い間いることができたならば、自分が感じたこととはまた違ったように感じ、モロッコの子供達へのイメージもまた全く違うものになったことだと思う。また滞在場所も都市に限られ、農村部での社会の様子はわからなかったことも心に留めておかなければならないと思った。モロッコに行く以前の夏に、東京の国際青年交流会議においてモロッコの派遣青年と家族のことについて討論し

「国際青年育成交流」事業（派遣）

た時のことを思い出す。彼らはモロッコのことについて考えるときには、都市部と農村部では社会状況が大きく違うので、別々に考えなければいけないと言った。確かに街から街への移動の間にバスの窓から見た風景は都市とは全く違った様子を持っていたし、自分が見たモロッコはモロッコの中の一部であり、それが全てではないと考えることは大切なことだと思う。SOS子供村は理念の面でも設備の面でも素晴らしいものであったが、モロッコ国内にある SOS 子供村は 3 つほどであり、それがモロッコの児童施設の典型的な例である、と言えるわけではないことは明らかである。

しかし、期間の短さや限られた訪問地ということを考えてとしても、私にとってモロッコでの経

験は非常に素晴らしいものとなった。モロッコに行く前には、モロッコのことに関してほとんど無知であった私が実際にモロッコに行くことで、日本に帰ってきてモロッコやモロッコの子供達についてふとした瞬間に考えるようになり、モロッコに対する興味が強く生まれたと感じる。そして SOS 子供村やその他の訪問先施設で働く方々の話を聞いたことは、児童問題に対するアプローチの方法や活動理念など様々な面において刺激的であり、感慨深いものとなった。

短い滞在ではあったがこの経験を生かして、これからモロッコや児童問題など様々なことについて興味をもって取り組み、また勉強していきたいと思う。

「白・白・白」～AAP+韓国新進陶芸作家+五感=?～

AAP は、1997 年度韓国派遣団団員を中心に自由で五感あふれる活動を展開すべく '02 年夏結成。都内初出展となる韓国若手陶芸作家による青白磁が私達の手によってどのように表出されるのでしょうか？真白な空間に全員で挑みます。展示販売の他、ゲストを交えてのトークショーも開催。どうぞお気軽にお越しください。

主 催：AAP、(有) 灯屋

会 場：新宿・参宮橋 西梵 GALLERY TEL：03 (3465) 5563

(国立オリンピック記念青少年総合センター正面向かい)

日 程：2003 年 3 月 5 日 (水) ～ 3 月 9 日 (日) (11:00 ～ 19:00)

H P：<http://gokan2003.hp.infoseek.co.jp/>

3 月 8 日 16:00～ 伝統茶を愉しみながらのトークショー (予定)

平成15年度内閣府青年国際交流事業一覧

| 事業名 | 事業の内容 |
|-----------------------------|--|
| 国際青年育成交流 | <ul style="list-style-type: none"> ● 皇太子殿下の御成婚を記念して、平成6年度から開始 ● 日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの2つの事業から構成 ● 当時皇太子殿下であられた今上陛下の御成婚記念事業として昭和34年度から開始された「青年海外派遣」事業及び昭和37年度から開始された「外国青年招へい」事業を継承発展 ● ボランティア活動、福祉活動、伝統文化等の共同体験交流を中心とした拠点滞在型の国際交流活動を実施 ● 日本青年約60名を世界5か国に23日間派遣、世界11か国から外国青年約100名を21日間招へい |
| 日本・中国 青年親善交流 | <ul style="list-style-type: none"> ● 日中平和友好条約の締結を記念し、日本と中国両国政府の共同事業として昭和54年度から開始 ● 日本青年約30名を19日間派遣、中国青年約30名を19日間招へい |
| 日本・韓国 青年親善交流 | <ul style="list-style-type: none"> ● 昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和62年度から開始 ● 日本青年約30名を15日間派遣、韓国青年約30名を15日間招へい |
| 世界青年の船 | <ul style="list-style-type: none"> ● 明治百年事業の一つとして昭和42年度から実施してきた「青年の船」事業を改組し、昭和63年度から開始 ● 日本青年約120名と訪問国を含む世界各国12か国の青年約130名が43日間船内で共同生活をしながら、世界的視点に立って共通の課題の研究・討論、各種の講義、スポーツなどの交流活動を行うとともに、訪問国では現地青年との交流活動を実施 ● オセアニア及び北・中・南米方面と南西アジア、アフリカ、中近東方面を隔年で訪問 |
| 東南アジア青年の船 | <ul style="list-style-type: none"> ● アセアン各国と日本との間の共同声明に基づいて、昭和49年度から開始 ● アセアン10か国の青年約300名と日本青年約40名が43日間船内で共同生活をしながら、アセアン各国及び日本を訪問 |
| 21世紀ルネッサンス 青年リーダー招へい | <ul style="list-style-type: none"> ● 21世紀のスタートにふさわしい新たな交流事業として平成13年度から開始 ● 世界各国の青年リーダー約80名を14日間招へいし、日本の青年リーダーとの討議・交流を実施 |
| 青年社会活動 コアリーダー 育成プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成14年度から開始 ● 社会活動に携わっている日本青年と外国青年が討議・交流を実施 ● 日本青年約15名を10日間派遣、外国青年約40名を14日間招へい |

内閣府青年国際交流事業の参加青年募集

内閣府の行う青年国際交流事業は、諸外国の青年との交流を通して、相互の理解と友好を促進し、広い国際的視野と国際協力の精神を有する次代を担うにふさわしい青年の育成を目指しています。

全国の青年の皆さんが、この事業に積極的に参加し、帰国後もその経験をいかして地域、職域、学校又は青少年団体等において国際交流活動、青少年活動などを活発に行い、社会に貢献されることを期待しています。

平成15年度の事業概要、応募資格等は次表のとおりです。

| | 国際青年育成交流 | 日本・中国 青年親善交流 | 日本・韓国 青年親善交流 | 世界青年の船 | 東南アジア青年の船 |
|--------------|--|-------------------------------------|--|--|--|
| 訪問国 | ドミニカ共和国、モロッコ、ミャンマー、ルーマニア、トルコ (うち1か国) | 中国 | 韓国 | インド、タンザニア、セイシェル [南アジア、オセアニア、中近東、アフリカ、ヨーロッパ、北米、南米地域の青年約150人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問] | 東南アジア諸国 [東南アジア10か国の青年約300人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問] |
| 実施時期 (期間) | 平成15年9月～10月 | 平成15年9月～10月 | | 平成16年1月～3月 | 平成15年9月～10月 |
| | 23日間程度 | 19日間程度 | 15日間程度 | 43日間程度 | 43日間程度 |
| 募集人員 | 各約12人 | 一般団員：中国 約25人 韓国 約25人 渉外団員：各2人 | | 約120人 | 約40人 |
| 資格要件 | 国籍 | 日本国籍を有すること。 | | | |
| | 年齢 | 18歳～30歳 (昭和47年4月2日～昭和60年4月1日生まれ) | 一般団員：18歳～30歳 (昭和47年4月2日～昭和60年4月1日生まれ) 渉外団員：概ね25歳～35歳 | | 18歳～30歳 (昭和47年4月2日～昭和60年4月1日生まれ) |
| | 青少年活動等 | 帰国後もその経験をいかして国際交流活動、青少年活動等を活発に行える者 | | | |
| | 語学力など | 一般的な教養があり、交流活動を円滑に行える英語力を有すること。 | 訪問国の公用語による簡単な日常会話能力があれば望ましい。 渉外団員：訪問国の公用語で任務を遂行できること | | 一般的な教養があり、交流活動を円滑に行える英語力を有すること。 |
| その他 | 国の行う同種の事業に参加したことのある者は応募できません(ただし、渉外団員への応募はこの限りではない)。※ | | | | |
| 研修 | 事前 | 7月中旬の約6日間 | | 9月中旬の約5日間 | 7月上旬の約6日間 |
| | 出発前 | 出発直前の約2日間 | | 出航直前の約3日間 | 出航直前の約3日間 |
| | 帰国後 | 帰国直後の約2日間 | | 帰国直後の約2日間 | 帰国直後の約2日間 |
| 個人負担額 | 約8万円 | | 約20万円 | | 約20万円 |
| | 〔内訳〕 研修費(事前、出発前、帰国後)、及び食費、渡航手続費用など(上京・帰郷旅費、旅行保険料等は、別途負担となります。) | | | | |
| 応募窓口 | 在住都道府県の青少年対策主管課(室)〔参加申込書、作文等を提出していただきます。〕 | | | | |

●訪問国、日程等は、国際情勢により、変更することがあります。

内閣府(青年国際交流担当)

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1 TEL(03)3581-1181(月～金 9:30～17:45)

ホームページ <http://www8.cao.go.jp/youth/bosyu.html>

平成15年度内閣府青年国際交流事業都道府県担当課一覧

| 都道府県及び 政令指定都市 | 主 管 課 (室) 名 | 電 話 番 号 (*直通) | 募 集 期 間 | 中 間 選 考 日 |
|------------------|---|----------------------------------|-----------|-----------|
| 1 北海道 | 総務部知事室国際課 | 011-231-4111 (21-215) | 3/17～4/10 | 書類選考 |
| 2 青森県 | 環境生活部青少年・男女共同参画課 | 017-734-9224 * | 3/3～4/4 | 4/15 |
| 3 岩手県 | 環境生活部青少年女性課 | 019-629-5346 * | 3/3～4/4 | 4/18 |
| 4 宮城県 | 環境生活部青少年課 | 022-211-2558 * | 3/1～31 | 4/18 |
| 5 秋田県 | 生活環境文化部県民文化政策課 | 018-860-1552 * | 3/11～4/10 | 4/17 |
| 6 山形県 | 文化環境部県民生活女性課 | 023-630-2101 * | 3/3～4/3 | 4/16 |
| 7 福島県 | 生活環境部県民環境室 | 024-521-7187 * | 3/3～4/4 | 4/17 |
| 8 茨城県 | 女性青少年課 | 029-301-2183 * | 3/3～31 | 4/18 |
| 9 栃木県 | 生活環境部女性青少年課 | 028-623-3075 * | 3/3～28 | 4/17 |
| 10 群馬県 | 保健福祉部青少年こども課 | 027-226-2628 * | 3/1～31 | 4/7～11 |
| 11 埼玉県 | 総務部青少年課 | 048-830-2912 * | 3/3～31 | 4/4～12 |
| 12 千葉県 | 環境生活部県民生活課 | 043-223-2330 * | 3/3～28 | 4/17 |
| 13 東京都 | 教育庁生涯学習スポーツ部社会教育課 | 03-5321-1111 (53-864) | 3/1～4/1 | 書類選考 |
| 14 神奈川県 | 県民部青少年課 | 045-210-3844 * | 2/27～3/20 | 4/13 |
| 15 山梨県 | 企画部県民室青少年課 | 055-223-1357 * | 3/3～4/3 | 4/16 |
| 16 新潟県 | 福祉保健部児童家庭課 | 025-280-5214 * | 2/24～3/28 | 4/17 |
| 17 富山県 | 厚生部児童青年家庭課 | 076-444-3136 * | 2/24～3/25 | 4/18 |
| 18 石川県 | 県民文化局女性青少年課 | 076-225-1377 * | 3/12～4/11 | 4/20 |
| 19 福井県 | 県民生活部青少年女性課 | 0776-20-0297 * | 3/1～4/7 | 4/15 |
| 20 長野県 | 社会部青少年家庭課 | 026-232-0111 (2358) | 3/3～31 | 書類選考 |
| 21 岐阜県 | 地域県民部青少年室 | 058-272-1111 (2422) | 2/24～3/24 | 4/10 |
| 22 静岡県 | 教育委員会事務局青少年課 | 054-221-3312 * | 3/3～31 | 4/11 |
| 23 愛知県 | 県民生活部社会活動推進課 | 052-961-2111 (2487) | 3/10～4/4 | 書類選考 |
| 24 三重県 | 生活部青少年育成チーム | 059-222-5986 * | 3/3～31 | 4/11 |
| 25 滋賀県 | 教育委員会事務局生涯学習課 | 077-528-4651 * | 3/3～28 | 4/20 |
| 26 京都府 | 府民労働部青少年課 | 075-414-4305 * | 3/3～31 | 4/18 |
| 27 大阪府 | 生活文化部青少年課 | 06-6941-0351 (4844) | 2/24～3/24 | 4/7 |
| 28 兵庫県 | 県民生活部生活文化局こころ豊かな人づくり課 勤兵庫県青少年本部事業推進部国際交流担当(選考試験) | 078-362-3143 * 078-360-8581 * | 3/1～31 | 4/10 |
| 29 奈良県 | 生活環境部青少年課 | 0742-22-1101 (3345) | 3/1～4/7 | 書類選考 |
| 30 和歌山県 | 環境生活部共生推進局青少年課 | 073-441-2503 * | 3/3～31 | 4/13 |
| 31 鳥取県 | 生活環境部県民活動推進課 | 0857-26-7248 * | 3/3～28 | 4/16 |
| 32 島根県 | 環境生活部国際課 | 0852-22-5586 * | 3/1～30 | 4/18 |
| 33 岡山県 | 生活環境部青少年課 | 086-224-2111 (2544) | 3/3～31 | 書類選考 |
| 34 広島県 | 環境生活部青少年室 | 082-228-9335 * | 3/3～4/4 | 4/16 |
| 35 山口県 | 環境生活部県民生活課 | 083-933-2634 * | 3/1～31 | 4/14 |
| 36 徳島県 | 県民環境部青少年育成チーム | 088-621-2204 * | 3/1～31 | 4/13 |
| 37 香川県 | 政策部青少年・男女共同参画課 | 087-832-3195 * | 3/1～4/9 | 4/20 |
| 38 愛媛県 | 保健福祉部児童福祉課 | 089-941-3434 * | 3/1～4/4 | 4/22 |
| 39 高知県 | 文化環境部国際交流課 | 088-823-9605 * | 3/1～31 | 4/9 |
| 40 福岡県 | 生活労働部青少年課 | 092-643-3387 * | 3/3～4/2 | 4/18 |
| 41 佐賀県 | 厚生部児童青少年課 | 0952-25-7055 * | 3/3～4/2 | 4/17 |
| 42 長崎県 | 教育庁生涯学習課 | 095-822-9410 * | 3/1～4/7 | 4/15 |
| 43 熊本県 | 環境生活部県民生活総室 | 096-383-1111 (7408) | 3/10～4/4 | 4/18 |
| 44 大分県 | 生活環境部青少年・男女共同参画課 | 097-536-1111 (3071) | 3/1～4/3 | 4/14 |
| 45 宮崎県 | 生活環境部女性青少年課 | 0985-26-7041 * | 3/1～3月末 | 4/15～19 |
| 46 鹿児島県 | 環境生活部青少年女性課 | 099-286-2554 * | 3/3～28 | 4/18 |
| 47 沖縄県 | 福祉保健部青少年・児童家庭課 | 098-866-2174 * | 3/3～4/4 | 4/17 |

「国際青年育成交流事業」討議セッション（第1回）募集概要

I 概 要

1 目 的

国際青年育成交流事業（外国青年招へい）のプログラムの一環として、世界11か国から招へいた外国青年と、国際的な問題に関心の深い日本青年とが、テーマごとのグループに分かれて率直な意見交換を行うことにより、それぞれのテーマについて、日本独自の考え方、あるいは、全世界で通用する考え方がどのようなものかという認識を深め、国際的対応力を身につける機会とします。

2 事業の概要

- (1) 開催期間 平成15年7月29日（火）～8月2日（土）までの5日間
(2) 会 場 独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
(3) 参加者
ア 日本青年 約60名（内閣府により、応募者の中から選考。）
イ 外国青年 約100名（「国際青年育成交流事業（招へい）」に参加している11か国の青年（ドミニカ共和国、モロッコ、ミャンマー、ルーマニア、トルコ、キューバ、ジョルダン、リトアニア、セネガル、スウェーデン、ウルグアイ）
(4) プログラム内容
テーマ別に分かれたグループごとのディスカッションを中心として、それぞれの分野の知識を深めるとともに、異文化を理解します。プログラムを通してディスカッションの進め方やコミュニケーションの技術、発表方法などを身につけられるようにします。

| | 日 程 |
|----------|---------------------------------------|
| 7月29日（火） | 日本参加青年オリエンテーション、ディスカッション講座、ディスカッション準備 |
| 7月30日（水） | 外国青年との交流会、グループ別ディスカッション |
| 7月31日（木） | グループ別視察 |
| 8月1日（金） | グループ別ディスカッション、発表会準備 |
| 8月2日（土） | 発表会 修了式 |

- (5) テーマ ①環境 ②情報 ③国際協力 ④教育 ⑤ボランティア活動 ⑥伝統文化

国際青年育成交流事業について

(1) 概 要

皇太子同妃両殿下の御成婚を記念し、平成6年度から開始した事業であり、本年度が第10回となります。日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの2つの事業から構成されており、「討議セッション」は、外国青年の日本招へいの一部となります。

(2) 外国青年招へいの主な流れ

| | |
|------------------|--------------------|
| 7月14日（月） | 来日 |
| 7月15日（火）～20日（日） | 国際青年交流会議を含む東京セッション |
| 7月21日（月）～28日（月） | ホームステイを含む地方セッション |
| 7月30日（水）～8月2日（土） | 討議セッション |
| 8月3日（日） | 離日 |

II 募集について

1 応募資格

- (1) ディスカッション可能な英語能力を有すること。
- (2) 全日程参加可能であること。
- (3) 年齢は20歳から35歳の者。
- (4) 選択したテーマについて討議可能な経験、知識を有すること。
- (5) 開催国参加青年としての自覚を持ち、円滑なプログラム運営に協力できること。
- (6) 国際青年育成交流事業（海外派遣）参加申込みをされている方も参加できます。

2 募集人員 約60名

3 共通言語 英語

4 募集方法

(1) 提出書類

ア 参加申込書（内閣府のホームページ（<http://www8.cao.go.jp/youth/koryu1.htm>）からも様式をダウンロードできます）

イ 課題の作文

- ・英作文：志望動機を600～800wordで述べてください。
- ・和作文：第1志望として選択したテーマに関して、今、あなたが最も注目していることに関して、1,000～1,200字で、あなたの意見を述べて下さい。
（書式は、いずれも縦A4判横書きとし、題名及び氏名を明記すること。（題名及び氏名は字数に含みません。）なお、作成に当たっては、パソコン、ワープロの使用も認めることとします。）

(2) 提出方法 内閣府（青年国際交流担当）へ郵送

〔送付先〕

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1 合同庁舎4号館

内閣府（青年国際交流担当）宛

(3) 締切 平成15年5月31日（土）消印有効

(4) 参加費 無料（宿泊、食費、プログラム中の移動費などの経費は主催者負担。

開催会場までの交通費は本人負担。）

(5) その他 ・提出書類は返却しません。

- ・参加が決定した場合は、情報交換のため、事務局が設定するメーリングリストに登録します。また、それに伴い、氏名を他の参加者に公開します。その他の情報については、必要に応じて、了解をいただいた上で公開します。

5 決定通知 選考の結果は平成15年6月下旬までに本人に通知します。

(参考)

討議セッションのテーマについては、アドバイザーとの協議を経て、参加する皆さんとの間で作り上げていくものですが、本年度の国際青年育成交流事業の統一テーマが「グローバル化と共生」であることから、それぞれのテーマでは、次のようなことを話し合うことが考えられます。

- ① 環境：持続可能な発展の在り方について
- ② 情報：プライバシー保護や情報の安全性確保などを通じた情報社会の健全な発展について
- ③ 国際協力：「率直なパートナー」として、「共に歩み共に進む」ためには、どうすればよいかについて
- ④ 教育：他者への思いやりと高い志を持つ青年の育成
- ⑤ ボランティア活動：自ら積極的に参画していくためには、どうすればよいかについて
- ⑥ 伝統文化：独自の文化をいかに次世代に伝えるかについて

都道府県IYEOによる内閣府青年国際交流事業報告会 & 説明会のお知らせ

| 都道府県名 | 日時 | 会場 | お問合せ先 |
|---------------------|-------------------------|--------------------------------|---|
| 北海道 事業報告会 | 3月8日(土) 14:00～16:00 | (財)札幌国際プラザ コンベンションホール | 北海道 IYEO 佐々木 090-6445-0604 hokkaido_iyeo@hotmail.com |
| 岐阜県 報告会及び 説明会 | 3月9日(日) 10:00～12:00 | 笠松中央公民館 (県立岐阜工業高校隣) | 岐阜県 IYEO 小川 058-387-0745(Tel&Fax) |
| 群馬県 事業報告会 | 3月9日(日) 13:30～16:00 | 群馬県庁 29 階 294 会議室 | 群馬県 IYEO 会長 小川 090-2752-8728 st-ogacho@mx9.ttcn.ne.jp |
| 富山県 帰国報告会 | 3月11日(火) 18:30～20:00 | 富山県民会館 608 号室 | 富山県 IYEO 事務局長 日南田 076-451-7574(TEL) 076-451-7423(FAX) hinataya@p2322.nsk.ne.jp |
| 徳島県 事業説明会 | 3月15日(土) 18:00～ | 青少年センター 1 階 102 会議室 | 県庁青少年育成チーム 088-621-2204 |
| 広島県 説明会及び 報告会 | 3月16日(日) 15:00～17:00 | ひろしま国際センター (広島クリスタルプラザ 6 階) | 広島県 IYEO 会長 林 a-rin884@sea.plala.or.jp |
| 高知県 帰国報告会 | 3月21日(金) 13:00～17:00 | 高知市立自由民権記念館 | 高知県 IYEO 会長 浜川 090-7145-8610 |

日本青年国際交流機構 第 19 回 全国大会 in 兵庫(近畿)のお知らせ

日 程：2003年11月8日(土)～9日(日)
場 所：シーサイドホテル 舞子ビラ(神戸市垂水区) <http://www.maikovilla.co.jp/>
問合せ先：兵庫県青年国際交流機構事務局(中罵)まで。E-mail: hyogo@iyeo.office.ne.jp

■□■□世界最長のつり橋、明石海峡大橋(パールブリッジ)がすぐ目の前です□■□■
ライトアップされた明石海峡大橋もお楽しみいただけます!
☆☆☆☆是非皆さまのお越しをお待ちしております☆☆☆☆

第31回 青少年国際理解セミナー



国際交流体験をどう活かすか？—ワークショップを通じて—

講師：中野 民夫 氏



- ワークショップ企画プロデューサー&会社員
 - Be-Nature School 講師 ●(社)日本環境教育フォーラム理事
 - 日本トランスパーソナル学会理事
- (著書)『ワークショップ』(岩波新書)
『ファシリテーション革命』(岩波アクティブ新書、近刊)
『自分という自然に出会う』(講談社、近刊)

日時：平成15年3月30日(日) 13:15～16:30 (13:00 受付開始)

場所：全国町村会館 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-35

TEL: 03-3581-0471

【最寄駅】地下鉄有楽町線/半蔵門線/南北線「永田町駅」

参加費：2,000円(飲物付) *当日受付にてお支払いください。

定員：60名(定員になり次第締切)

主催：内閣府政策統括官(総合企画調整担当)

(財)青少年国際交流推進センター/日本青年国際交流機構(IYEO)

目的：①参加体験型の学びの場「ワークショップ」について学ぶ。

②国際交流で得た経験を、自分の人生にどう活かすかを探る。

内容：様々な国際交流体験をした皆さんは、その経験をどのように活かしていますか？各自の貴重な体験を振り返り、今後の人生にどのように活かしていくことができるのか、「ワークショップ」で探ってみましょう。また「ワークショップ」という新しい学びと創造の手法についても、理解を深めたいと思います。講師・ファシリテーターは、『ワークショップ』(岩波新書)著者の中野民夫さんです。きっと、新しい春を迎える充実のひとときになることでしょう。

～興味と意欲がある方であれば、どなたでも参加できます～

*****【お問い合わせ/お申し込み】*****

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

(財)青少年国際交流推進センター 青少年国際理解セミナー係 担当：田中

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

E-mail: seminar@iyeo.or.jp HP: http://www.iyeo.or.jp

日本青年国際交流機構 平成15年度ブロック大会について

IYEO ブロック大会はブロック毎に毎年1回開催されております。平成15年度各ブロック開催県をお知らせします。日程等詳細は随時マクロコズムやIYEOホームページ等でご連絡いたします。

| ブロック | 開催地 | ブロック構成都道府県 |
|--------|-----|--------------------------|
| 北海道・東北 | 岩手県 | 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 |
| 関東 | 栃木県 | 茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨 |
| 北信越 | 長野県 | 新潟・長野・富山・石川・福井 |
| 東海 | 三重県 | 静岡・愛知・岐阜・三重 |
| 近畿 | 奈良県 | 滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山 |
| 中国 | 山口県 | 鳥取・島根・岡山・広島・山口 |
| 四国 | 徳島県 | 徳島・香川・愛媛・高知 |
| 九州 | 熊本県 | 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄 |

編集後記

今号は、内閣府青年国際交流事業の日本派遣青年の募集特集号としました。国際情勢の厳しい折りですが、こうした際であるからこそ平和のシン

ボルともなりえる青年国際交流事業を大切に継続していきたいと考えます。平成15年度事業募集にあたり皆様のご協力をよろしくお願ひします。

*本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 3月号 Vol.51 2003年3月1日発行 (隔月発行)

編集: マクロコズム編集委員会

発行: 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力: 内閣府政策統括官

(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定価: 225円 (本体214円)

印刷所: 株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

「国際青年育成交流」事業

平成6年に皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して開始された「国際青年育成交流」事業も9回を迎え、今年も、本事業としては初訪問となったルーマニア、モロッコを始め、メキシコ、ミャンマー、スウェーデン、タンザニアの6か国への派遣となりました。メキシコを除く5か国は、平成14年9月10日から10月2日の派遣となり、メキシコは受入れの都合で10月4日から26日の期間となりました。

モロッコ (初訪問)



◀ ボーイスカウトセンターにて



在メディナ「アル・ファシア」レストラン
▼にて芸能鑑賞



児童教育 NGO「ATT」訪問 ▼



航空機による派遣事業

ルーマニア (初訪問)



▲ クルテア・デ・アルジェシ市庁にて



▲ ヴァドゥ・イゼイでのホームステイ

▼ ヤシ・文化プログラムで地元青年との交流 ▼



World Buddhist
Meditation Institute
にて
日本語の授業を受けて
いる生徒との懇談



小学校にて授業参観

ミャンマー



シユエジゴン・バゴダにて



▲ アフリカの大地に植樹



タンザニア

▲ ザンジバルの伝統芸能と一緒に



農村での暮らしにアドバイスする
JICA隊員に同行

スウェーデン



▲ サンクリストバルの女性・子どもの人権保護施設にて
子供たちと交流

メキシコ



▲ メキシコ自治大学にて学生とディスカッション



▲ ホストファミリーとともに

「日本・中国青年親善交流」事業（平成14年9月14日～10月2日）



▲ 北京の人民大会堂にて要人会見（イスマイル・アイマツト 国務院国務委員）



▲ 雲南民族学院にて少数民族の学生に阿波踊りを紹介し共に踊る



▲ 北京の故宮にて

▼ 昆明で行われた合宿討論会の分科会



▼ ホストファミリーとの昼食会



「日本・韓国青年親善交流」事業 (平成14年9月18日～10月2日)



▲ 文化観光省へ表敬訪問



▲ 修練院での2泊3日の合宿の後、別れるのが寂しく泣いてしまう青年も。良き出会いになりました

韓国の伝統的衣装、韓服を着て
▼ 伝統的な挨拶を教してもらう



▼ 慶州にて。陶磁器の工場見学



修練院にて、韓国伝統楽器を
▶ 韓国青年と合奏

「花の村」コットンネにてお年寄りと交流 ▼





For the Guest, Always.

いつも心地いいひとときを。東京全日空ホテルから。

●客室901室 ●12のレストラン&バー ●大小22の宴会場 ●駐車場500台収容

 東京全日空ホテル
ANA HOTEL TOKYO

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目12番33号
Tel.(03)3505-1111 www.anahotels.com/tokyo

1973年2月14日。一隻の大型客船が横浜を出航しました。歴史的な日本初の世界一周クルーズへの出発です。それが、初代「にっぽん丸」。現在の「にっぽん丸」はそれから数えて3代目です。この間、私たちは、日本のクルーズの先駆者として、新しいクルーズや様々なサービスを開発してきました。例えば、日本船初めての展望浴場などは、ほんの一例。また、私たちの長い経験の集大成である独自の船内プログラムが、他の日本客船全てのお手本になっていたりもします。ところで豪華客船でのクルーズと言うと、リタイア後の老夫婦がのんびりと旅をされているイメージをお持ちではないでしょうか。でも、「にっぽん丸」に乗船してこられるお客様は、驚く程アクティブな方が多いのです。いや、アクティブになられると言った方が正しいのかもしれませんが。これまでの人生になかった新しい体験を、船の上で得た新しい仲間達と一緒に貪欲に吸収されるのです。自ら進んで何か新しいものを得ようとする気持ちを冒険と言うとすれば、冒険には年齢や性別なんて関係ない、私たちは、そんな皆さんの想いを満足させることを一番大切に考えています。そして私たち自身も、お客様に負けなくらいに、いつも新しい事に挑戦して行こうと思っています。これまでも、ずっとそうして来たように。

冒険する生活を選びました。

冒険する生活
にっぽん丸

 商船三井客船
<http://www.mopas.co.jp>

クルーズデスク フリーダイヤル
 0120-791-211



にっぽん丸は、米国公衆衛生局 (USPH) による船舶衛生検査において、3年連続で日本船最高得点を獲得しました。

美しい時代へ — 東急グループ



旅も楽しめる合宿にしたい。



急に1週間の全国出張になった。

ひとりひとりに、満点旅行。

ONE
to
ONE



家族水入らずで楽しめるプランを。



北から南まで温泉三昧したい。

商品力、サービス力、情報力、3つのパワーで、あなたの旅をさらに快適に。

どんな旅でも、東急観光はすべてのお客様に満足していただきたいと願っています。そのために、オリジナル旅行や団体旅行など、多彩な商品をご用意。IT活用による最新情報入手から24時間予約まで、リアルタイムな体制でお応えします。そして旅を熟知した私たちのひとりひとりが、お客様の旅を親身になって考えます。



国土交通大臣登録旅行業第38号
©日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://www.tokyukanko.com>
<http://tour.tokyu.com>